2026 年度

研究分野	授業科目名	科目責任者
生化学系分野	ショック病態生化学特論Ⅰ・Ⅲ	椎野 泰和

開講年次	共通／専攻／選択	単位数	
1,2,3,4	特論Ⅰ：必須専攻, 特論Ⅲ：選択	特論Ⅰ：4（2/年）, 特論Ⅲ：1/年	

目的

各種ショックの病態生理・その治療および臨床疫学等に関する研究テーマを探すために，最近の国内外の関連文献を検索して，理解する。

授業到達目標

各種ショックの病態生理・その治療および臨床疫学等に関する日本国内外の研究論文を数多く読破して，その内容をまとめて発表することができる。

授業計画

回数	月日	曜日	時間	担当者	区分 1	区分 2	授業内容
1	第 1 週	火	17:30-18:30	井上 貴博	講義	[抄読会]	ショックを含む救急疾患，重症病態（特に中毒，心肺停止，心肺蘇生，蘇生後脳症，災害）に関する代表的論文や新知見を紹介する。臨床統計学についての学習成果発表でも可とする。いずれの場合も指導教官からの質疑応答を行う。 [場所:高度救命救急センター 1852]
2	第 2 週	火	17:30-18:30	宮本 聡美	講義	[抄読会]	ショックを含む救急疾患，重症病態（特に小児，呼吸不全，腎不全，栄養管理）に関する代表的論文や新知見を紹介する。臨床統計学についての学習成果発表でも可とする。いずれの場合も指導教官からの質疑応答を行う。実施日については臨床業務などを加味してその都度設定する。 [場所:高度救命救急センター 1852]
3	第 3 週	火	17:30-18:30	高橋 治郎	講義	[抄読会]	ショックを含む救急疾患，重症病態（特に感染症，敗血症，病院前救急診療）に関する代表的論文や新知見を紹介する。臨床統計学についての学習成果発表でも可とする。いずれの場合も指導教官からの質疑応答を行う。実施日については臨床業務などを加味してその都度設定する。 [場所:高度救命救急センター 1852]
4	月 4 回	火	17:30-18:30	椎野 泰和	講義	[抄読会]	ショックを含む救急疾患，重症病態（特に外傷，環境障害）に関する代表的論文や新知見を紹介する。臨床統計学についての学習成果発表でも可とする。いずれの場合も指導教官からの質疑応答を行う。実施日については第５週あるいは１～４の実施状況などを加味してその都度設定する。 [場所:高度救命救急センター 1852]

評価方法

【特論Ⅰ】
（1） 1年間※で 30 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（2） 1年間※で，論文紹介または症例発表を２回行い，その要約２編を提出する。
【特論Ⅲ】
（1） 1年間※で 15 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（2） 1年間※で，論文紹介または症例発表を２回行い，その要約２編を提出する。
ただし，特論Ⅰ・Ⅱで紹介したものとは異なる論文（症例）であること。
特論ⅠとⅢの同年度での重複受講は不可とする。
※１～３年生は２月末まで，４年生は 11 月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。

課題（レポート等）に対するフィードバック

（1）論文の要約について，指導医と討論する。
（2）指導医は要約を添削して返却する。

教科書

ISBN-9781451121186, Marino's the ICU Book（4th Edition）, Paul L. Marino, Lippincott Williams & Wilkins, 2013

参考書

ISSN-0915-924X, 日本救急医学会雑誌, （一社）日本救急医学会

準備学習（予習・復習等）
（１）PubMed から救急領域に関する文献（最近の知見が含まれていること）を選択し，それを読んで，その内容（研究手法，統計学的評価法等）を批判的に把握して，その問題点等の有無を整理しておくこと。 （２）講義ごとに紹介する文献および論文を，講義までに熟読しておく。 （３）事前に教科書や参考書で約１時間程度，講義に関係する該当箇所を予習しておく。 （４）輪読する論文の要約を作成する。
修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
卓越した研究成果をあげ，救急医学の深い学識を獲得する。
注意事項・メッセージ
関連する国内外の学会誌や PubMed で定期的に関連論文を検索して読む習慣をつけること。 日本救急医学会総会，日本集中治療医学会総会で発表を行い，その要約２編および発表スライドを提出すること。